

校内研究について

京都市立養正小学校

1. 学校教育目標

子どもの良さや可能性を最大限に伸ばす養正教育の推進

【めざす子ども像】

- ・進んで考え、表現する子
- ・自分や仲間の良さを認められる子
- ・きまりを守り、楽しく活動する子
- ・運動に親しみ、健康な生活をする子

2. 研究主題

読む力を育て、進んで考え、表現できる子をめざして
～読むために書く 書くために読む 国語科の授業づくり～

研究の重点目標

説明的文章の指導方法を研究し、読む力・書く力を育てる。

研究主題・重点目標の設定

本校は長年、旧同和地区をはじめ、すべての児童に生きる力を育むために、国語科を中核に据えて研究を行ってきた。養正小学校の児童一人一人が、言葉の力を身につけることが、より豊かに生きていくために必要な力であると考えたからである。言葉の力を身につけたために、国語科を中心に学習に取り組み、確かな学力をつけたいと考えている。学力を測る上で、1つの目安としたいのは、研究会テスト・プレジョイントプログラム・ジョイントプログラムである。将来の人生設計を考えるにあたり、高校進学というのは、養正の子どもたちにとって、大きな障壁となっている。テストの結果を視野に入れて、研究を進めていきたい。

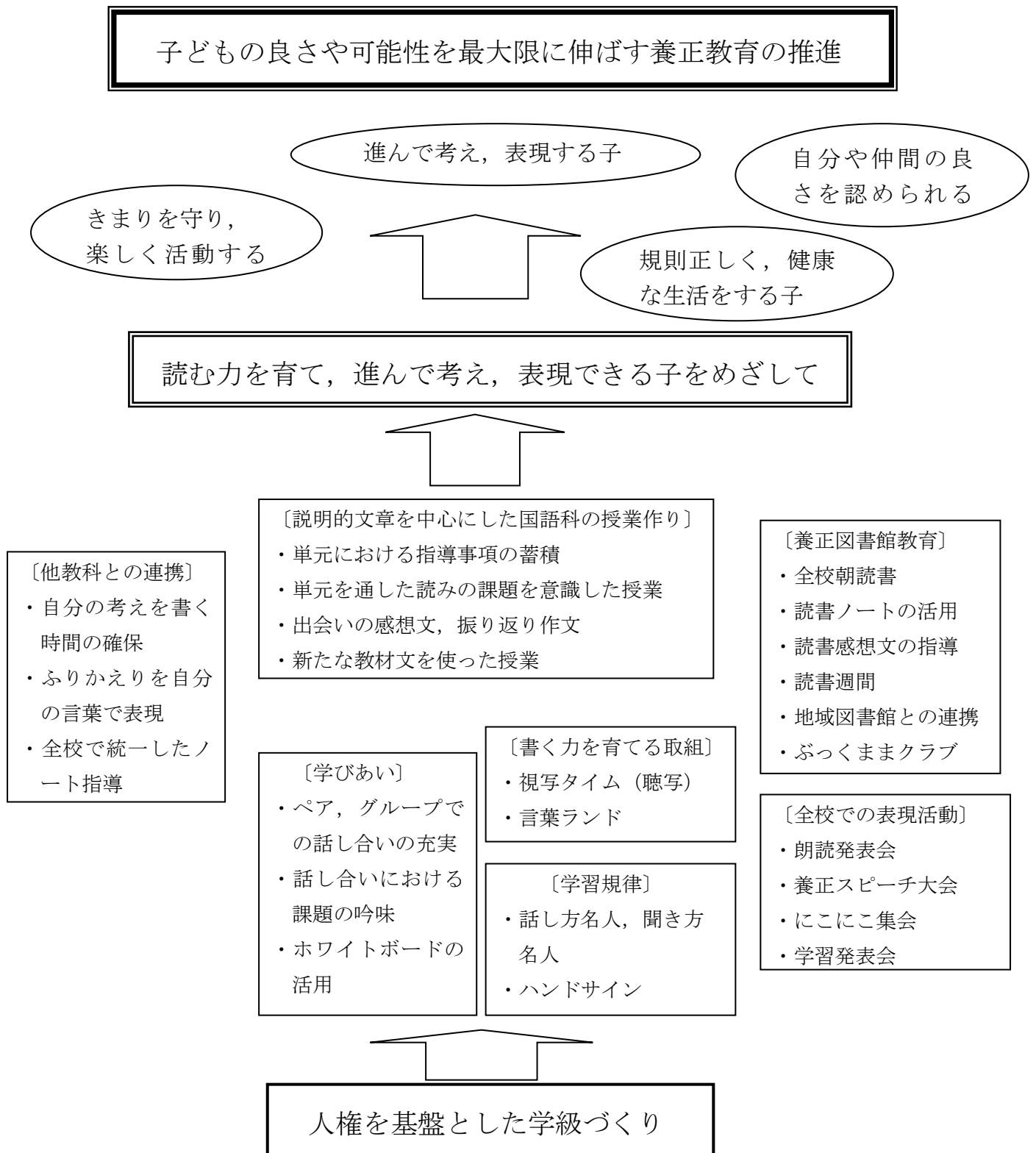
この2年間、研究に取り組んできた結果、成果と課題が明確になってきた。成果としては、書く力がついてきたことである。書くことの領域では、全市との差は、26年度はマイナス3.3ポイント、27年度はマイナス8.9ポイント、28年度はプラス0.45ポイントであった。さらに、書く設問における無回答率も減少した。全市との差は、26年度は9.1ポイント、27年度は10.9ポイント、28年度は3.9ポイントであった。書く取組を継続してきた成果だと考えている。ただ、読む力に大きな課題がある。全市との差は、26年度はマイナス2.6ポイント、27年度はマイナス6.6ポイント、28年度はマイナス6.8ポイントであった。

そこで、前年度までの研究を基本とし、本年度は、説明的文章を研究の中心に置き、読み慣れを意識したい。子どもたちが、教材文と出会い、読む機会を増やしていくことがまず大切だと考える。その上で、説明的文章の指導法を校内で系統立てて指導していきたい。

では、なぜ説明的文章なのか。ジョイントプログラムにおいて、書くことの設問は、①文章を読んで課題を把握する。②課題に対する自分の意見をもつ。③意見形成を行う。④事実に基づいて説明する。という流れで問題を解く。この流れは、説明的文章の筆者の思考と同じである。つまり、説明的文章を読む力を身につければ、文章を書く力につながると考えたからである。説明的文章を読む力とは、書かれた内容を正確に読み取り、表現の工夫や文章の構成に仕組まれた筆者の意図を読み取り、要旨をとらえ自分の考えを表現できる力のことである。また、逆に文章を書く力を身につけることができれば、説明文を読む力を身につけることができると考える。もちろん、ただ文章を書く力ではなく、論理的な文章を書く力である。論理的な文章とは、①文章構成を明確にして書く。②自分の考えが伝わるように書く。③事実と考えを区別して書く。などが挙げられる。まさしく説明的文章の読みとつながる。読む力と書く力を連動して育てていきたいと考える。

副題の読むために書く 書くために読むとは、読むことと書くことと関連的に指導することである。例えば、教材を読むときに、一人で考える過程において、自分の考えを明確にしなければいけない。頭の中にある考えは感覚的なものであり、書くことにより論理的な考えになると考える。また、言語活動において、意見文を書く活動を設定するときには、要旨を正確に読み取らなければいけない。読む・書くを関連させた国語科の授業作りを進めていきたい。

3. 研究構想



4. 具体的な取組

①説明的文章の単元における指導事項の蓄積と明示

指導事項とは、文章を読むために用語や方法を教えることである。教科書の『たいせつ』や京都市の指導計画に記載されている用語や方法を当該学年で指導しきり、次の学年で活用できるようにする。子どもたち自身も学びの蓄積を実感するために、指導事項を教室に掲示したり、ノートを活用したりして明示する。

説明的文章の解釈に関する指導事項

低学年では、**時間的な順序や事柄の順序**などを考えながら内容の大体を読むこと、中学年では、目的に応じて、**中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて読むこと**、高学年では、目的に応じて、**文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること**を示している。

なお、文章の解釈とは、本や文章に書かれた内容を理解し意味付けることである。具体的には、今までの読書経験や体験などを踏まえ、内容や表現を、想像、分析、比較、対照、推論などによって相互に関連付けて読んでいく。文章の内容や構造を理解したり、その文章の特徴を把握したり、書き手の意図を推論したりしながら、読み手は自分の目的や意図に応じて考えをまとめたり深めたりしていくことである。

『小学校学習指導要領解説（国語編）』

学習の系統性の重視

国語科の指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、能力の定着を図ることを基本としている。

『小学校学習指導要領解説（国語編）』

②重点教材

年間3本～4本の説明的文章の教材

昨年度の実践をもとに、さらなる積み重ねを図る。（昨年度の研究の冊子を参照）

③読むことの指導の充実

教科書の教材を指導した後、その教材で教えた指導事項の定着を図るために、教科書以外の教材を使って指導。ただし、1～2時間程度の指導とする。今年度は、最低1本実践するようにする。教材文については、過去の教科書や他社4社の教科書から使用する。

④単元の流れの共通理解

出会う 範読

形式段落の番号をふる（①，②・・・）

難語句の意味調べ（辞書の活用）

出会いの感想文を書く。

文章構成をつかむ（初め・中・終わり）

- ・初めの役割（問い・話題提示・筆者の主張）を考える。
- ・終わりがどこからなのか考えることによって、筆者の主張がわかる。
- ・中を筆者がどのように説明しているのか、表現の工夫に気づく。
- ・文章全体を俯瞰的に読む力がつく。

単元を通した読みの課題を設定する。

読む 指導事項をもとに授業を行う。

単元を通した読みの課題を意識した指導

表現する 指導事項を活用できる言語活動

振り返る 単元の振り返り作文を書く。（何を学んだかを表現させる）

⑤1時間の授業の流れ

課題把握(めあての提示，学習教材の音読)

↓

一人学び（考えをノートに書く）

↓

みんな学び（ペア・グループ→全体）

↓

振り返り（1時間で学んだことを書く）

⑥全文シート

教科書を使つての指導と並行して，全文を打ち込んだプリントも使い指導する。

単元の導入や音読は，教科書を使い，第二次あたりから全文シートを使う。

全文シートは，研究のフォルダに入っている。

⑦ノート指導

思考力・表現力を意識したノート作り。原則ワークシートを使った授業は行わない。1時間の授業の流れに沿って，書けるようにする。基本的に使い終わった国語ノートは，教室保管し，いつでも前の学習が振り返られるようにする。

⑧家庭学習の充実

読み慣れの観点から，漢字の宿題だけでなく，文章の読み取りの宿題を出す。今年度は週1回出すようにする。

⑨言葉ランド（月２回程度）

文法や作文指導の時間とする。書く活動を授業時間に組み込み日常的に指導する。

１時間の流れ 言葉慣れ（１５分）→作文（２０分）→相互評価（１０分）

⑩視写ベーシック（週１回）

書き慣れの時間とする。文章を書き写すには、単語、文節、文を意識することが必要になる。各学年に応じた文字数を設定し、その時間に書ききるようにする。手本となる文章に慣れ親しむようになる。

５分間	１年	１２５字	２年	１７５字	３年	２００字
	４年	２２５字	５年	２７５字	６年	３２５字

⑪朗読発表会（７月）

単元の出口として、朗読発表会を設定する。

- ・ことばを大切にして、作品と向き合い、表現する楽しさを味わう。
- ・全校で朗読大会を開き、交流する楽しさや聞く楽しさを味わう。
- ・朗読や群読にクラス全員で取り組むことで、お互いの声を聞きあい表現を工夫しあい、声が重なる心地よさを味わう中で集団としての高まりを感じる。

⑫養正スピーチ大会（３月）

単元の出口として、養正スピーチ大会を設定する。

- ・相手意識をもって、目的や意図に応じて、事柄が分かりやすく伝わるように、話の構成を工夫し、場に合った適切な言葉遣いで話すことができる。
- ・話し手の意図を考えながら聞くとともに、話し方の工夫や音声表現のよいところを聞き取り、自己の表現を生かしていこうとする態度を育てる。

⑬読書指導

- ・図書部の取組
- ・読書環境の整備

⑭話し方名人・聞き方名人・ハンドサイン

教室に掲示し、系統立てた指導

○教室掲示

	聞くこと	話すこと	話すとき、つかってみよう
低 学 年	あ あいての目を見て い いい（よい）しせいで う うなずきながら え えがおで お おわりまで だ だいじなことをおとさず	さ さいごまで あ あいてを見て か かんがえまとめて き 聞こえる声で く 口をあけて け けっしてあせらず こ ことばをたいせつに	はい。～です。 ○○さんとおなじで～です。 わたしは～だと思います。 そのわけは、～です。 ○ページ（○段落）を見てくだ さい。
中 学 年	あ 相手を見て い 一生けんめい う うなずきながら え 笑顔で お 終わりまで	か かんたんな文で き 聞こえる声で く 口を大きく け 決して急がずに こ 言葉づかいに気をつけて ま 前（相手）を見て	はい。わたしは、～です。 ○○さんに つけたして～で す。 ○○さんに しつ間ですが～ その理由は～だからです。 ○ページ（○段落）の△からも わかるように・・・～です。 どうですか。
高 学 年	おもいによりそう 聞き方を 相手の意図をくんで 話し手に共感して 最後まで 答えやすい質問を	心にひびく話し方を 聞き手に向かって届く声で 要点をはっきりさせて 間・速さ・強弱などを工夫して 場に応じた話し方で	はい。私は～です。 その理由は・・・だからです。 私も～さんと同じで～です。 その理由は・・・だからです。 私は～さんと違って～です。 その理由は・・・だからです。 ○ページ（○段落）の△から～ ということが分かります。 どうですか。
全 学 年	ハンドサイン グー 同じ意見・関係・賛成 チョキ つけたし パー 新しい意見 違う意見		返事でかえす・・・はい うなずく・・・なるほど かしげる・・・おや

5. 研究組織と進め方

○研究組織

研究部（木村・篠原・中山・芝山）

育成部会（渋谷・篠原・佐藤・山口）

低学年部会（中山・梶谷・園部・東）

中学年部会（菱田・芝山・今西）

高学年部会（木村・小島・熊谷）

○研究授業

研究授業Ⅰ 4本（育成・低・中・高）・・・指導助言（指導主事），全員参加

①学年部会（学年・研究主任）で指導案検討

②拡大検討会（学年・研究部・佐藤・園部）で指導案検討

③授業検討会（学年・研究部）で模擬授業

④授業・事後研

研究授業Ⅱ 3本（低・中・高）・・・指導助言（管理職），学年・研究部

①学年部会（学年・研究主任）で指導案検討

②授業検討会（学年・研究部）で模擬授業

③授業・事後研

6. 授業研究の重点

①説明的文章における指導事項についての理解を促す授業展開のあり方

②読みを深める発問のあり方

*本時では，どのような授業展開を工夫し，対話的な学びに至る発問をどのように考えたのか，指導者の意図を指導案に論述する。事後研究会では，工夫や発問について協議をし，指導助言を受ける。

7. 年間計画

5年国語 研究授業Ⅰ

5月17日（水）指導案検討（学年部・研究主任）

5月26日（金）模擬授業（学年部・研究部）

5月31日（水）研究授業・事後研（学年部・研究部・学校長）

6年国語 研究授業Ⅱ

6月6日（火）指導案検討（学年部・研究主任）

6月13日（火）拡大検討会（学年部・研究部・佐藤・園部）

6月20日（火）模擬授業（学年部・研究部）

6月22日（木）研究授業・協議会（全教職員）

2年国語 研究授業Ⅰ

- 6月30日（金）指導案検討（学年部・研究主任）
- 7月 7日（金）模擬授業（学年部・研究部）
- 7月12日（水）研究授業・事後研（学年部・研究部・学校長）

1年国語 研究授業Ⅱ

- 8月 指導案検討（学年部・研究主任）
- 8月25日（金）拡大検討会（学年部・研究部・佐藤・園部）
- 9月 1日（金）模擬授業（学年部・研究部）
- 9月 5日（火）研究授業・協議会（全教職員）

3年国語 研究授業Ⅱ

- 11月21日（火）指導案検討（学年部・研究主任）
- 11月28日（火）拡大検討会（学年部・研究部・佐藤・園部）
- 12月 5日（火）模擬授業（学年部・研究部）
- 12月 7日（木）研究授業・協議会（全教職員）

えのき学級 研究授業Ⅱ

- 1月30日（火）指導案検討（学年部・研究主任）
- 2月 6日（火）拡大検討会（学年部・研究部・佐藤・園部）
- 2月13日（火）模擬授業（学年部・研究部）
- 2月15日（木）研究授業・協議会（全教職員）

4年国語 研究授業Ⅰ

- 2月16日（金）指導案検討（学年部・研究主任）
- 2月23日（金）模擬授業（学年部・研究部）
- 2月27日（火）研究授業・協議会（全教職員）